



歌枕の里、井手町において♪ 春の訪れを待ちながら、歌碑めぐり



今回はJR奈良駅から快速で15分、京都南部の井手町へ。奈良時代に当時の権力者だった左大臣橘諸兄がこの地に居を構えて以降、小野小町や藤原俊成といった歌人らが愛した歌枕の里でもある。町内に点在する「歌碑」を巡りながら、田園風景広がる初春の井手町を散策。 玉津岡神社からの眺望

2,023円の旅ルール
その1：所持金は2,023円（交通費込み）
その2：出発は近鉄・JR奈良駅、近鉄大和八木駅のいずれか
その3：車での移動は×（ただし公共交通機関は○）

8 井堤寺跡
橘諸兄が母・橘三千代の一周年忌に氏寺として建てた奈良時代の寺跡。諸兄が西方浄土を形にしようとする境内から玉川にかけて山吹を植えたことで「井手の玉川」、「山吹の玉川」として広まる。小野小町が出家して同寺で余生を過ごした伝説も残る。
住 綴喜郡井手町井手東高月

9 蛙塚
玉川保育園の裏側（北）にある小さな水場には、石碑とカエルのかわいい石像が3体。井手町は、古来山吹とともに「蛙（かわず=カエルのこと）」の名所であり、玉川の蛙を詠んだ歌は、なんと83首を数えるとか。
住 綴喜郡井手町井手玉/井58-1

6 小野小町塚
平安時代の歌人で、六歌仙・三十六歌仙の小野小町は、晩年に井手に住み玉川堤を散歩したという伝承が残る。玉津岡神社の参道にある石を積んだこの塚は、小町の墓と伝わる。
住 綴喜郡井手町井手東垣内

3 六角井戸
六角形の珍しい井戸。聖武天皇が平城京から恭仁京へ遷都する際、橘諸兄が用意した仮の宮「玉井頓宮」にあったとされ、「公（橘諸兄）の井戸」として語り継がれる。
住 綴喜郡井手町井手ノ本93（安養寺の北隣）

4 橘諸兄公旧址
奈良時代に活躍した左大臣橘諸兄の碑。高台にある美しい竹林を進むと、ひっそりと供養塔がある。井手を愛した諸兄は、相築別業（諸兄の別荘）をはじめ、玉川に山吹を植え、井堤寺を建立し、万葉集の選者でもあった。
住 綴喜郡井手町井手南開

7 玉津岡神社
540年に下照比売命がこの地に降臨したのが起源。731年に橘諸兄が創祀したと伝わる。長い石段を上った本殿からは、のどかな井手の里を一望できる。
住 綴喜郡井手町井手東垣内63 0774-82-4065

10 大西商店
明治期創業。酒や調味料に加え、5年前からオーガニック商品も販売。人と地球にやさしい食品やお菓、日用品をそろえる。こだわり野菜や果物、米にスパイスの量り売りコーナーも。
住 綴喜郡井手町井手柏原68 0774-82-2056 9:30~18:00 日曜、祝日

1 銘木カフェ SHIKI
玉水駅前すぐ。製材業・建築事務所だった建物を改装し、先代が大事にしてきた貴重なムク木を用いたほっこりカフェ空間。名物の「山背オムカレー」で腹しらえ。2階にはレンタルスペースも。
住 綴喜郡井手町井手柏原37 0774-82-2025 8:30~17:00（金土10:00~） 休日・月曜 閉あり

2 玉川の河川敷
日本六玉川の一つ。水が清らかで古来和歌にも詠まれてきた。春には500本のソメイヨシノと山吹が咲く名所。昭和28年の南山城大水害で一時はその景観を失ったが、地元尽力により近年復活。両岸に20基ほどの歌碑が建つ。平成の名水百選。
住 綴喜郡井手町井手橋44 0774-82-3838、0774-82-6170 9:00~16:00

5 井手町まちづくりセンター 椿坂
敷地内に奈良大安寺の瓦を焼いた「石橋瓦窯跡」がある。
※現在コロナ禍なので、トイレ以外の利用は休止中とのこと
住 綴喜郡井手町井手橋44 0774-82-3838、0774-82-6170 9:00~16:00

8 井堤寺跡
慈しんであなたが育てたなでしこの花。私は花を楽しみにだけ訪れようなどと思う人ではないですよ。丹比真人国人が諸兄の長寿を願って詠んだ歌への返歌

9 蛙塚
山吹の花が散ったことだ。今頃井手の蛙は盛んに鳴いていることだろう

10 大西商店
ほんがしなど 599円 残金 244円

10 大西商店
ぼんがし 220円（井手町MINORI工房）
赤米（加茂産）80g 232円
ローリエ（井手産）1g 67円
カシ米尔チリ（井手産）4g 80円

START
JR奈良駅
運賃 240円
残金 1,783円
JR玉水駅

1 銘木カフェ SHIKI
オムカレー 930円
残金 853円

井手町の特産品タケノコ入り！
自家製オムカレー 930円

2 玉川の河川敷
春の玉川堤の桜並木

店主の山川知恵里さん

旅を終えて
玉水駅から玉津岡神社で折り返す、ぐるっと1周の旅でした。今回は行けなかったが、さらに北東方向に登った「万灯呂山展望台」からの景色は最高らしい。桜の咲く季節に再訪しようかなあ。

GOAL JR奈良駅 ⇄ JR玉水駅
運賃 240円
残金 4円

人との繋がりを大切に。ワクワクするカラダにやさしい商品を取りそろえています
竹内由記さん

駒とめて、なほ水かはむ 山吹の花の露をう 井手の玉川
馬をとめて水を飲ませようか。山吹の花の露が垂れる井手の玉川で

山吹の花。橘諸兄が最初に玉川に植えたとか。

Yomiこ編集部長が旅人になってテーマに沿った小旅行を提案します。もっと気軽に手軽に、考えた「ぶらり」でかへ行き「たくなる」あの気持ちを2023円以内で収めました。封筒の中には旅のルールと2023円だけ。あなたはどよう使う？